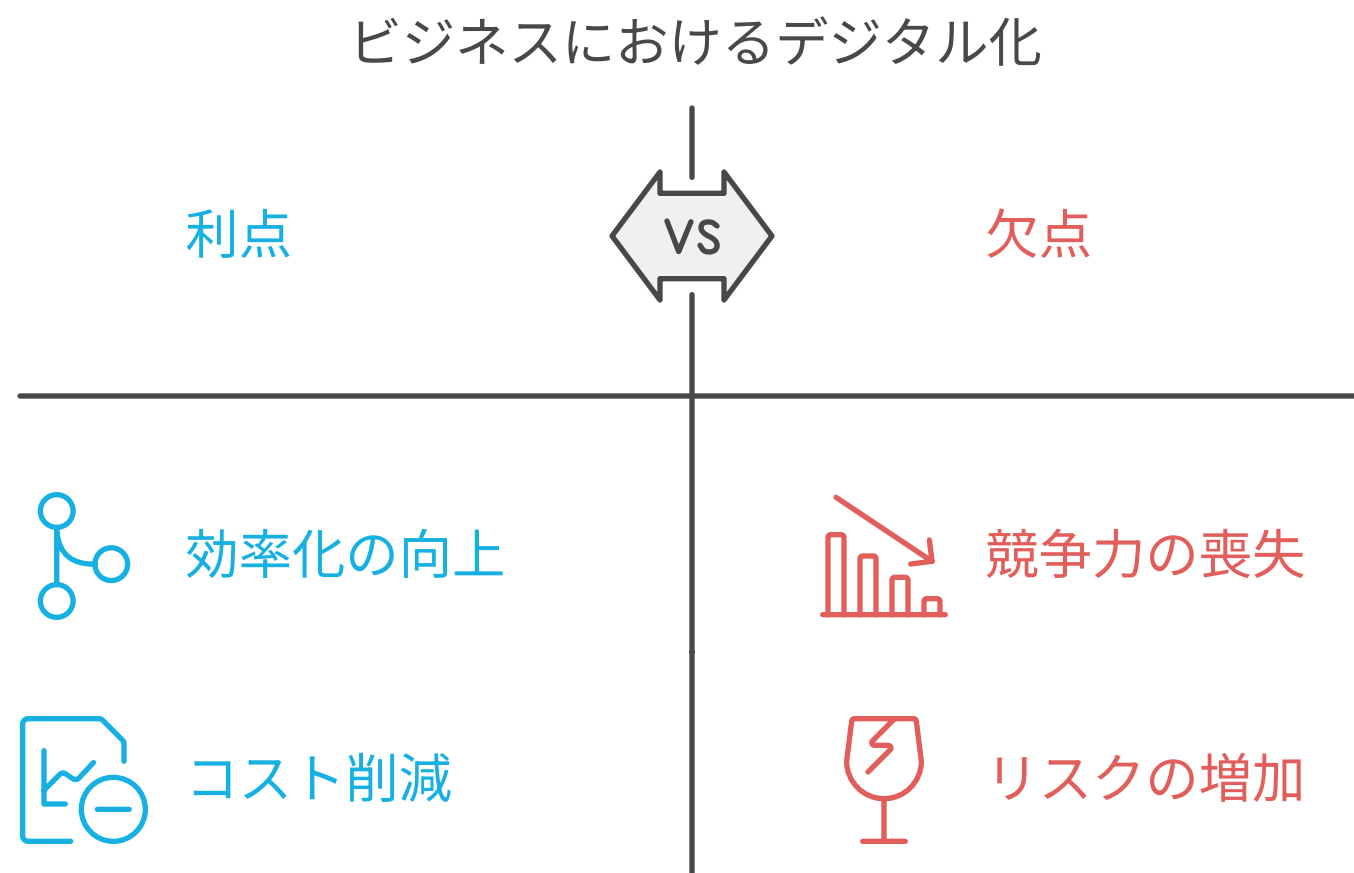


IT担当者のためのデジタル化ガイドライン

「社長や部長から、ITを進めろ」と言われるが知識も少ないし、どうして良いか分からない
・ ・ チームもないし。そんなIT担当者のためのガイドラインです。結局、デジタル化は避けられないケースが多い、ならまずは、この資料をぜひ。

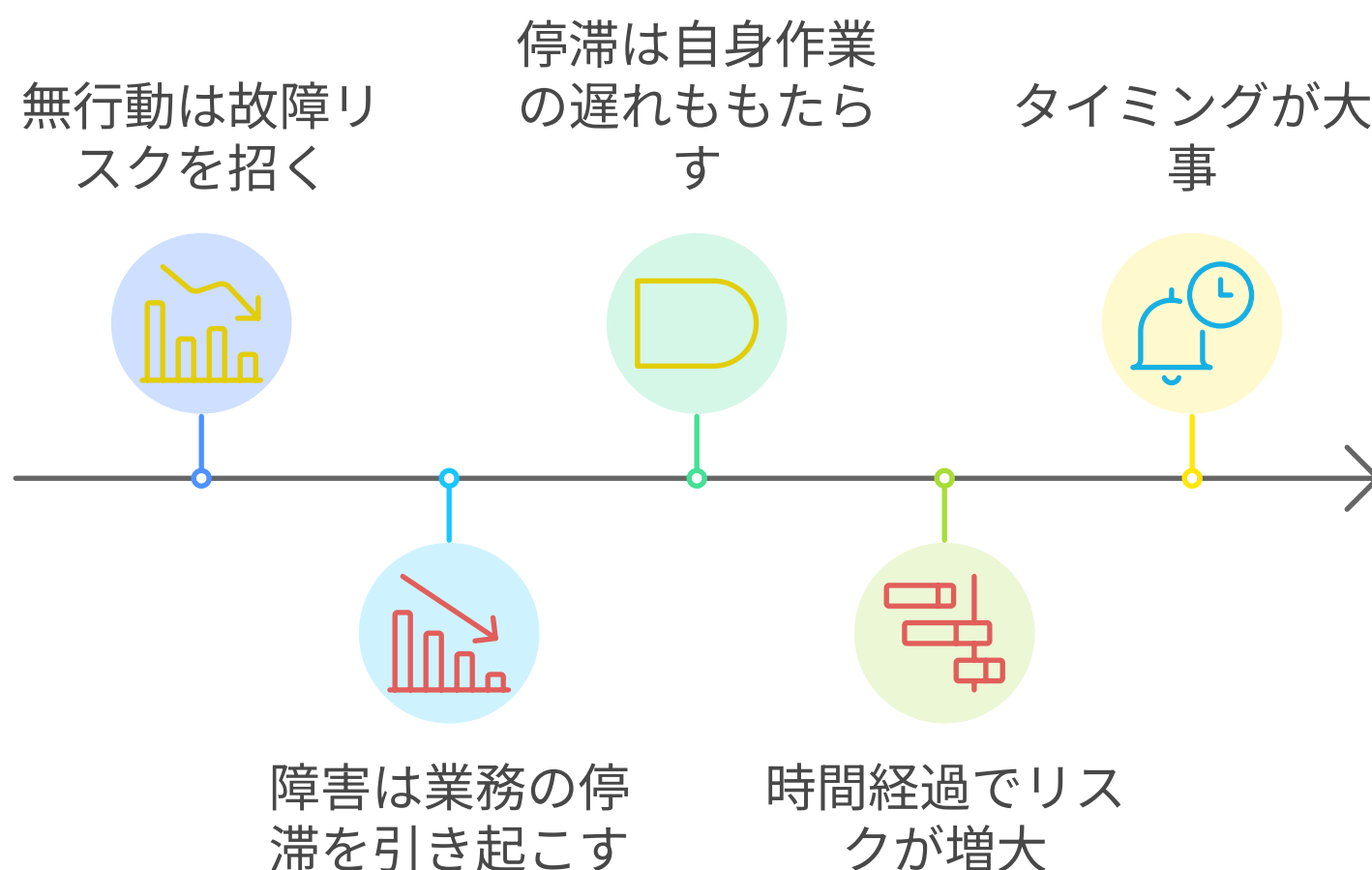
1. デジタル化を始める理由と今動くべきタイミング

デジタル化を進めた企業と進めていない企業を比較します。また、システムの老朽化で、保守切れて、修理出来ず、主管業務の受発注や販売も止まっても対応すらできないリスクがあります。



今動かないと、時間の経過とともに競争力が低下し、業務の停滞が起きるリスクが生じます。相談するだけでも良いんです。

競争力の低下と業務の停滞を避けるために行動を起こす



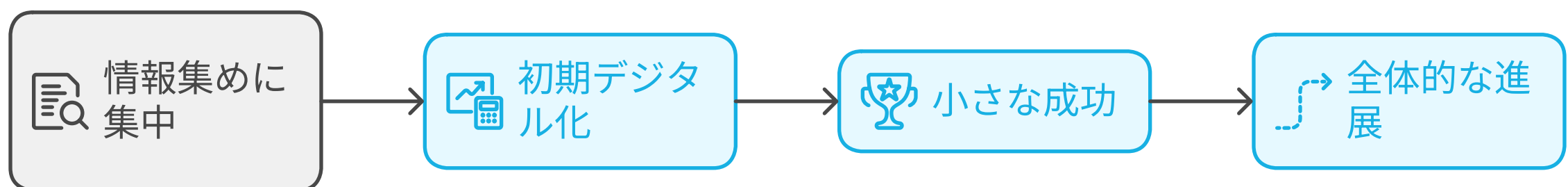
2. すぐに取り組める小さなステップ

ステップ1（集中）

IT担当者が最初に取り組むべき、低コストで簡単に導入できるデジタル化のステップに集中します。または、このオウンドメディアのように、とにかく情報集めをします。

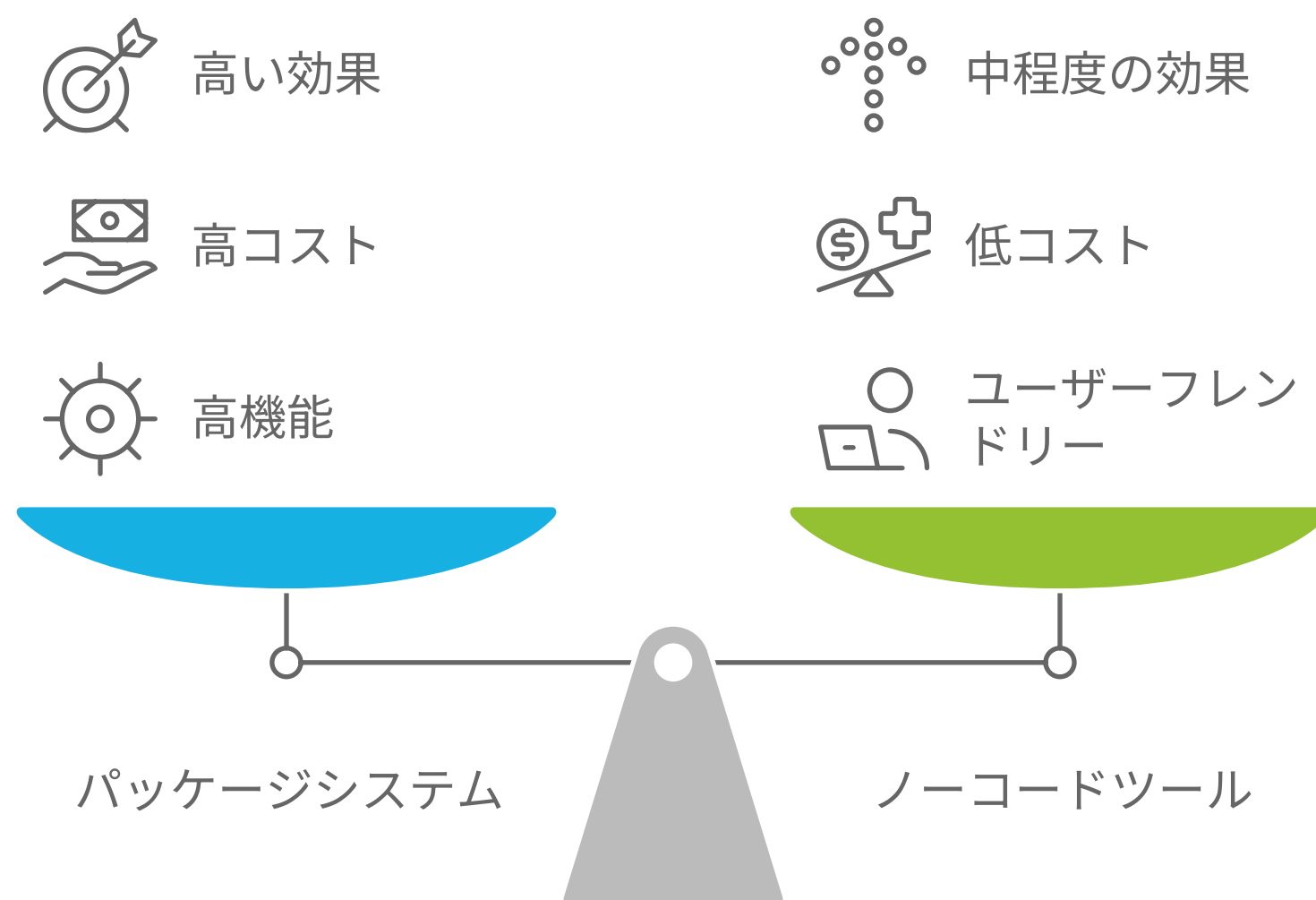
ステップ2（流れ）

小さな成功体験から次のステップへと進む流れを示します。まず一つのプロジェクトに集中し、段階的にデジタル化を拡げていくプロセスを描き、成功を重ねることで自然に進展していく流れを視覚化します。



3. 成果が見える実践的ツールとリソース

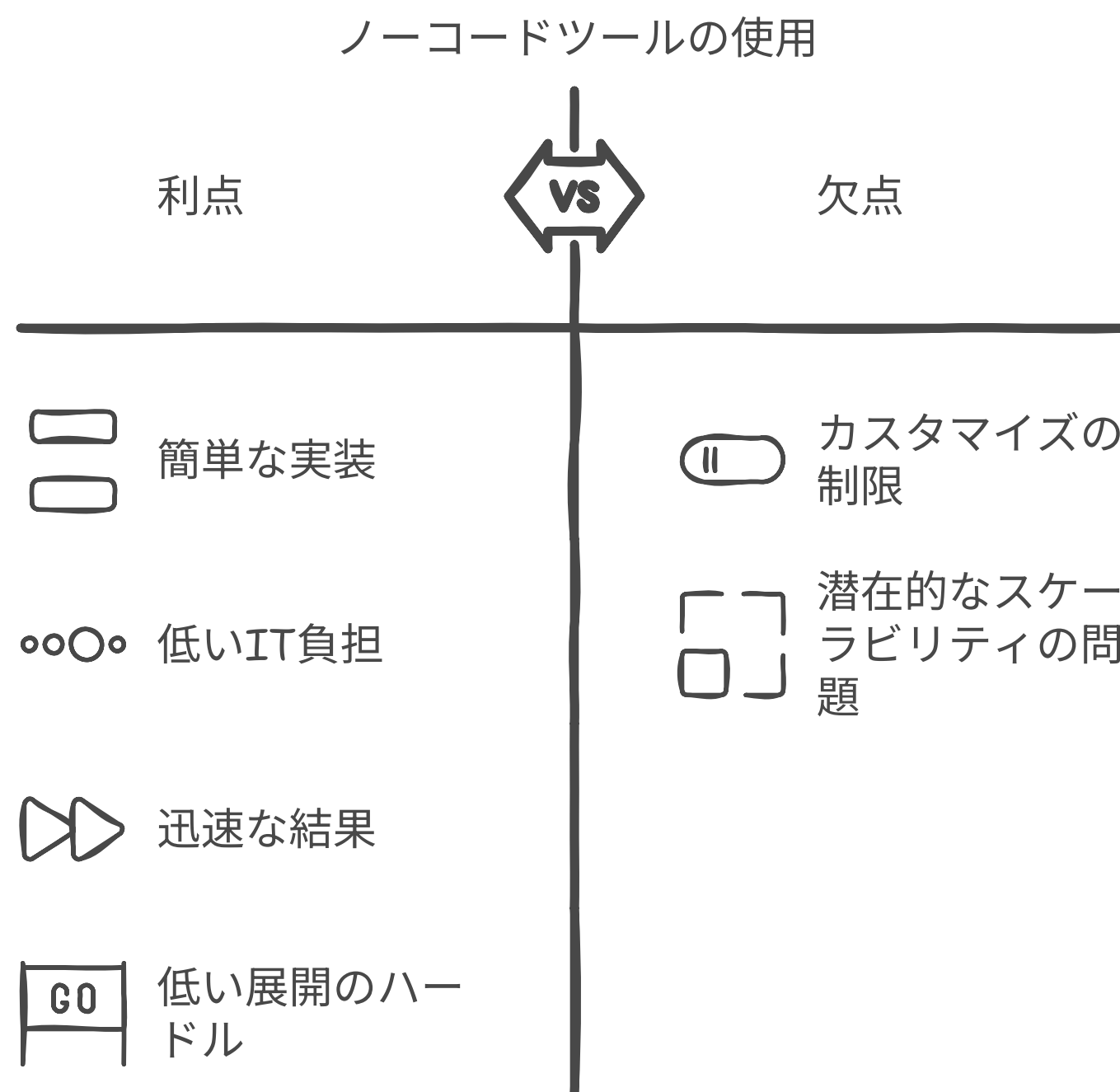
パッケージシステムとノーコードツールの機能やコスト・効果を対比します。小さく始めるにはノーコードツール（例：kintoneなど）がオススメです。



パッケージシステムとノーコードツールの比較。

安価で使い易いノーコードツール

成果が出やすく、導入が簡単なノーコードツール（例：kintone、JUSTDBなど）から始める事をオススメします。IT担当者の少ない負担で成果を出せる。現場展開のハードルも低いで



4. 外部支援者を巻き込むデジタル化推進方法

IT担当者が一人で抱え込むのではなく、外部支援者などを巻き込みます。経営層は、売上や利益が下がるが困ります。金額の大小はありますが、デジタル化に外部専門家（コンサルタント、デジタルツール提供者）が必要だ、とIT担当者が説明するのが一歩目です。待っていると、この資料の最上部のようにリスク増大します。※システムベンダーは【システムの提供者】です。経営が求めているのは、【業務を支えるデジタル化】です。これは微妙に違うので要注意です。

